



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3089 号 2016.6.19 発行

### 「課題解決の体験」鍵 若者の主権者意識育む

大阪日日新聞 2016年6月18日

19日に施行される18歳選挙権では、若者の主権者意識をどう高めていくかが問われている。教育関係者からは、児童生徒が学校のルール作りに取り組んだりする有効性が指摘され、大阪府内で効果を上げているケースもある。普段の生活の中で「課題解決の体験」を積み重ねられる環境づくりが鍵を握っている。

修学旅行について話し合う児童たち=箕面市の箕面こどもの森学園



総務省と文科省が昨年、全国に配布した主権者教育の副教材『私たちが拓（ひら）く日本の未来』の生徒用では、主権者には「現実社会の諸課題を見だし、協働的に追求し解決する力」が必要と説明。教員用では「具体的・実践的な活動を学校現場に取り入れること」を求めている。

#### ■生徒が中心に

副教材が求める力が発揮された例として、ある府立高校では、これまで学校が決定していた体育祭の種目を実行委員会のメンバーが中心となって生徒たちが決めた。カーディガンは黒か紺色と指定されている別の高校では、生徒が「グレーはなぜだめなのか」と教員に働き掛けた。

児童がルールを決める教育施設もある。国連教育科学文化機関に「ユネスコスクール」と認定された「箕面こどもの森学園」（箕面市）もそう。学習指導要領にとらわれない施設のため、法定の「学校」ではなく、NPO法人が運営する。

施設内のルールは、児童が実行委員会を設けて削除・見直しを進めており、去年は「学園内で人を撮影した場合、インターネットに載せない」ことにした。5年の井上拓実君（10）は「ルールは自分たちで決めるもの」と言い切る。

6日には、小学4～6年に当たる約10人で修学旅行について話し合い、旅費調達のためフリーマーケットの開催を決めた。4年の三上絢禾さん（10）は「何かを決めるのは大変だけど達成感がある。選挙に行くときは、周りの意見に流されずによく勉強したい」と話した。

藤田美保校長は「対話を積み重ね、多角的に物事を考えたり、自分のこととして引き受ける経験を通して主権者は育つ」と、この手法の利点を語る。

#### ■学校から地域へ

こうした取り組みについて、副教材の作成に協力した立命館宇治中学・高校（京都府）の杉浦真理教諭（52）は「自分たちの生活は、自分たちで決められるのが政治。小、中学校でこうした取り組みが増えれば」と評価する。

その上で、主権者は日本だけではなく、温暖化といった世界的な課題についても目を向けるのが必要とし、そうした若者を育むためには学校と家庭に加え「地域振興や地域の福祉マップ作製といった地域とのかかわりを持つことも必要」と強調。地域と協働した体験

から、国や世界について考えられるようになるのが重要といい「大人が総掛かりになった主権者教育が求められる」と話す。

#### はじめの1票 第3部 学校はいま (4) 特別支援学校 教材意識足りない時間



佐賀新聞 2016年06月19日

国から届いた主権者教育の副教材を基に、内容を分かりやすくした資料を作る熊谷幹哉教諭=佐賀市大和町の大和特別支援学校

わずか2ページだった。昨年12月、全国の高校に国から届いた主権者教育の副教材全95ページの中で、特別支援学校に割かれたページ。「生徒会選挙を通して選挙学習を体験する」といった内容で、真新しさはなかった。大和特別支援学校の熊谷幹哉教諭(55)は「障害の種類も重さも異なる生徒たちがいる状況で、教科書だけ渡されても厳しい」とこぼした。

高等部3年生は41人。自閉症や重複障害のある生徒たちの理解力はばらつきがあり、国から渡された副教材をそのまま使うことは難しい。他の特別支援学校からも「文字情報ばかりで生徒が読むのに苦労する」といった声も上がる。

熊谷教諭は教科書をイラストを多用した分かりやすいスライドに意識する作業に取り組むが、言葉の言い換えや抽象的な概念の説明に頭を悩ませる。

「選挙は国を動かす代表者を選ぶもの」「主権とは国を動かす大きな力」。できるだけかみ砕いた表現を心掛けるが、言葉を尽くすほど、表面的な説明に終始してしまいがち。各政党の色や参院選の争点といった具体的な内容に触れる時間は減っていく。

「一人一人に分かるよう説明したいが、本当に時間がない」と熊谷教諭。生徒の就労支援や社会的自立を促す重要な役割も担う特別支援学校で、主権者教育に割ける時間は限られる。

理解度とともに、どこまで教えるか、内容での影響力に気を使い、現場の教師は二の足を踏む。うれしの特別支援学校の武富美栄子教諭(48)は、政党や候補者の主張を解説すれば「生徒たちの投票基準に第三者の価値観が入り込むのではないかと心配する。国や社会の仕組みを教え、投票することの意義を伝えることに重点を置く。

投票日、どれだけの生徒が足を運んでくれるだろうか。どれくらい授業を理解してくれているのかを確かめるすべはない。等しく与えられた「1票」は、政治に参加する貴重な機会。熊谷教諭は「政治に興味を持ってもらえるようにするのが役割。選挙が少しずつ障害者にもやさしいものになってほしい」と願う。

#### 教育エキスポに100社 最新機器や教育法を紹介 最新の教育関連製品が展示された会場=17日午後、大阪市中央区の大阪マーチャンダイズ・マート

教育関係の最新機器や教育法を紹介する「ニューエデュケーションエキスポ」(実行委主催)が17日、大阪市中央区の大阪マーチャンダイズ・マート(OMM)で始まった。約100社が製品を展示し、セミナーでは約100人の教育関係者らが登壇。先駆的な取り組みや教育の将来像を紹介している。18日まで。入場無料。

催しは、教育関係者らを対象に「未来の教育」を考える場をつくろうと実施。21回目を迎えた。

会場では、子どもの主体的な学びを促すアクティブラーニングの手法を最新機器とともに

大阪日日新聞 2016年6月18日



に紹介したり、今後本格化するプログラミング教育の教材を展示。教員らの負担を軽減するため、校務の効率化を促す機器も紹介するなど、用途別に多彩な製品が並んでいる。

セミナーでは、数百人規模の学生を想定したアクティブラーニングを専門家が実演するなど、斬新な教育法が披露された。

実行委広報の深沢琴絵さんは「最新機器を体験してもらい、自分に合った使い方をイメージしてもらえれば」と来場を呼び掛けている。

## 調剤費用、薬局で広がる差 お薬手帳持参で安く 日本経済新聞 2016年6月15日 薬剤師との相性も薬局選びのポイント（東京都内の薬局）



病院や診療所が出した薬の処方箋をどこの薬局に持ち込むかで、調剤にかかる料金が異なるのをご存じだろうか。患者の行動や判断で変わる料金もある。どうしてこんな複雑なことになっているのだろうか。患者は薬局をどう選べばいいのだろうか。

「次からはお薬手帳を持ってきてもらえば40円安くなりますよ」

東京都内の主婦（52）は先月、家の近所の薬局で処方箋を出したところ、こんな声をかけられた。制度が変わったからと説明された。「よくわからないけど、とりあえず次からは手帳を忘れないようにしよう」と主婦は思った。

健康保険で受ける医療の料金は手術でも薬でもすべて政府が一つずつ決めており、これを診療報酬と呼ぶ。4月にこの診療報酬の改定があったため、薬局で支払う費用も一部変わった。

薬局は患者に薬を出す際、どのような薬が処方されたかを記録し、服用方法などを指導する費用として「薬剤服用歴管理指導料」という報酬を請求できる。この料金は原則500円だが、2回目以降は「お薬手帳」を持参した患者の場合、380円に下がった。

差額は120円だが、現役世代の患者は3割負担なので、実際に患者が払う額は四捨五入で40円の差となるわけだ。

### ■手帳持参で負担減

お薬手帳とは、薬局などでもらえる手帳で、ここに処方された薬の名称や用法、用量が書いてあるシールを貼っていく。医療機関で処方された薬のすべてを一冊の手帳に記録していくことで、飲み合わせの悪い薬や重複している薬がすぐにわかり、緊急時にも役立つ。利点が多いとして政府は普及させた

### A 同じ処方箋でもどの薬局にどう持ち込むかで料金が変わる

処方箋	内 訳						
	合計 料金	患者負 担金 (3割)	調剤 基本料	薬剤服用 歴管理指 導料	かかりつ け薬剤師 指導料	調剤料	薬剤料
処方箋 アムロジピンベシル酸塩錠5ミリグラム(降圧剤) 1日1回朝食後 28日分							
一般的な薬局でお薬手帳を持参しない	2550円	770	410	500		800	840
一般的な薬局でお薬手帳を持参(2回目から)	2430	730	410	380		800	840
一般的な薬局で「かかりつけ薬剤師」を指名	2750	830	410		700	800	840
大病院の門前薬局	2390	720	250	500		800	840
門前薬局で「かかりつけ薬剤師」を指名	2590	780	250		700	800	840
チェーンの大型門前薬局	2340	700	200	500		800	840
チェーンの大型門前薬局で「かかりつけ薬剤師」を指名	2540	760	200		700	800	840

(注)実務薬学総合研究所の協力で作成、薬は後発薬を使用、薬局の設備・体制などによってほかにも料金が加算される場合もある



い考え。そこで、手帳を持ってくる患者の負担が減るようにした。

薬局でかかる料金はこの指導料だけではない。ほかにも様々な料金があり、それが薬局ごとに異なる場合がある。合計金額ではどのような違いが出るか。高血圧症の患者が降圧剤を処方された例で見てみよう。(表A)

降圧剤は価格の安いジェネリック(後発)薬を使う。この代金(薬剤料)が840円。また飲み薬1種類を28日分出したときの調剤料は800円。ここまでの計1640円はどこの薬局でも同じ。しかし最終的な料金は、2340円から2750円まで様々。3割負担の患者なら100円以上の差となる。

料金が異なる原因はお薬手帳の有無のほか、「調剤基本料」にもある。薬局に処方箋を持ち込むと必ずかかる料金だ。基本は410円だが、大病院のすぐそばにあって、その病院が発行する処方箋ばかり大量に受け付けているいわゆる「門前薬局」だと、250円に下がる。さらに門前薬局のなかでも、チェーンの大型薬局などは200円だ。

政府は医師と同様、薬局についても患者に「かかりつけ」を決めてもらう方針を掲げる。お薬手帳も活用しながら、その患者に複数の医療機関が出す薬のすべてを把握するかかりつけ薬局があれば、安全性・効率性が高まるからだ。しかし一部の門前薬局などは処方箋通りに薬を出すだけで、求められる役割を果たしていないとして、懲罰的に調剤基本料を下げた。

ただし料金が下がると患者負担も安くなって、そこに患者が集まるといふ矛盾が生じかねない。「この問題への対策という面もあって」(厚生労働省)、これら門前薬局では患者がお薬手帳を持参しても「薬剤服用歴管理指導料」を下げないこととした。

#### ■「相性」で選ぶ

4月から「かかりつけ薬剤師指導料」という料金が新設されたことにも注目しておきたい。最近薬局に行った人の中には「私をあなたのかかりつけ薬剤師にしませんか」と声をかけられた人もいるかもしれない。

これは、薬局の中の特定の薬剤師を患者同意のうえで、かかりつけ薬剤師と決めたとき、調剤のたび取れる料金で、金額は700円。この薬剤師はその患者に処方される薬をすべて把握するほか、24時間患者から連絡がつくようにすることなどが求められる。

かかりつけ薬剤師を決めると、薬剤服用歴管理指導料は請求できなくなるが、合計金額はやはり少し高くなる。なかには丁寧に説明もせず同意書に署名させようとする薬局もあるようだが、納得できなければ、きっぱり断るべきだろう。

「かかりつけ薬剤師指導料を取らなくても、かかりつけの機能は果たしている」という薬局もある。日本薬剤師会も「高齢で複数の医療機関にかかっており、自分では薬の管理がおぼつかないといった患者向き」と話している。

一般的に後発薬を使うことで薬局でかかる費用は安くなる。また、それ以外でも患者の選択で変化する部分があった。しかし、わずかな安さを求めて遠くの薬局を探すより、「身近な場所で常に行く薬局を決めることが患者のためになる」(厚労省)との声は関係者にほぼ共通する。

その際の薬局は「相性で選ぶのが一番」(日本薬剤師会)だそうだ。「薬剤師の入れ替わりが少なく、気軽に立ち寄れて、地域の医療機関の情報も豊富などころがよい」(実務薬学

#### B 薬局がどのような料金を取っているかは「明細書」でわかる

薬剤師との相性も薬局選びのポイント(東京都内の薬局)

調剤明細書(例)					
患者番号	××××	氏名	〇〇〇	調剤日	H28.6.1
区分	項目名	点数	備考		
調剤技術料	調剤基本料	41			
	調剤料 内服薬(28日分)	80			
薬学管理料	薬剤服用歴管理指導料	38			
薬剤料	アムロジピン錠5mgサワイ1日1錠28日分	84	後発薬		

(注)点数を1点=10円で換算し、すべて足し合わせるとかかった合計料金になる

総合研究所の伊集院一成社長) ともいわれる。

これらも参考に信頼できるかかりつけの薬局を探したい。ただそのためにも、かかりつけを持つメリットをもっと感じられる工夫が必要だろう。(編集委員 山口聡)

## 抗精神病薬「ゼプリオン」使用後の死者80人超に 読売新聞 2016年6月16日



2013年11月の市販開始以降、使用した患者の死亡報告が相次いだ抗精神病薬ゼプリオン。4週に1度、肩か臀部(お尻)の筋肉に打っただけで効果が持続する便利な注射剤だが、市販後、半年の死亡報告が32人に上り、このうち16人が突然死、あるいは突然死が疑われる死亡であることなどを、読売新聞などで伝えてきた。

死亡報告の多さを受けて、厚生労働省は2014年4月、ゼプリオンに関する安全性速報(ブルーレター)の発出を指示。販売するヤンセンファーマ社に、医療関係者への注意喚起を行うよう求めた。更に、突然死のリスク上昇などにつながる多剤併用を防ぐため、添付文書の改訂も行われた。だが、以後も他の薬より早いペースで死亡報告が増えていった。

2016年6月15日現在、医薬品医療機器総合機構(PMDA)のサイトに掲載されたゼプリオン使用後の死亡例(2016年1月までの報告を掲載)は83人に上る。手をこまねていると、今年中に100人を超える恐れがある。

### 不十分な調査で因果関係も分からず

抗がん剤の投与で副作用が疑われる死亡例が出ると、数例でも大騒ぎになり、詳しい調査が始まる。だが、ゼプリオンは死亡例の詳細な調査が行われず、死因すら分からない死亡報告も目立つ。そのため、ゼプリオンの投与と死亡との因果関係もはっきりしない。厚生労働省は「抗がん剤は劇薬の指定を受けているので慎重な対応を行っている」と説明するが、ゼプリオンを注意喚起だけで済ます理由にはならない。統合失調症患者の命の価値は、進行がん患者の命の価値よりも低いと考えているのだろうか。

日本精神神経学会も頼りない。2014年6月に横浜で開かれた学術総会では、相次ぐ死亡報告を受けて、ゼプリオンの「緊急教育講演」が行われた。ところが講演した医師は、ゼプリオンに関してヤンセンの顧問的な立場(ゼプリオンの医学専門家)にある人物だった。利益相反のブラックジョークのような展開で、お粗末極まりない。

ゼプリオン使用後の死亡報告の多さについて、ヤンセンの広報は2014年6月、私の取材にこう語った。「他の薬に比べ死亡率が高いとは判断していないが、より慎重な投与を医師に求めたい」

この時、ヤンセンが強調したのは「統合失調症患者の死亡率はもともと高く、ほかの抗精神病薬もきちんと調べれば同様の結果になるはず」ということだった。だが、ヤンセンが内服薬として販売する同じ成分の抗精神病薬「インヴェガ」は、ゼプリオンの3年近く前の2011年1月に発売されたにもかかわらず、PMDAへの死亡報告は30人。同じくヤンセンが販売する類似成分の抗精神病薬注射剤「リスパダールコンスタ」は、更に古い2009年6月の発売だが、死亡報告はゼプリオンの半分以下の40人だ。

ゼプリオンは、広く使われている抗精神病薬を注射剤にしたものなので、とりわけ危険な成分が含まれているわけではない。ゼプリオンが特殊なのは、初回に最も多い量を投与して、血中濃度を上げる使い方にある。添付文書では「通常、成人には初回150mg、1週間後に2回目100mgを三角筋(肩の筋肉)内に投与する。その後は4週に1回、75mgを三角筋又は臀部筋内に投与する」とある。このような用法・用量について「最初は少量から始めて、様子を見ながら次第に増やしていく投薬の大原則とはあまりにも異なり、患者によっては悪影響が出るのではないかと懸念する声が販売開始時からあった。

## 医師の投与方法や用量に問題か？

千葉大学社会精神保健教育研究センター特任教授の渡邊博幸さんは「ゼプリオンを含む筋肉注射製剤は、筋肉内から血液中に入って全身に循環する薬の量に無視できない個人差がある。ゼプリオンの用量設定では、多過ぎる人がいるのではないか。また、ゼプリオンの基本的注意事項として、複数の抗精神病薬の併用を必要とするような不安定な患者には用いない、と添付文書にあるが、これを守らず、内服の抗精神病薬の処方を受けながら、ゼプリオンを上乗せ投与する例が今も続いているのではないか」と指摘する。

ヤンセンの広報は次のように説明する。「ゼプリオンは適正に使っていただく限り、安全でよい薬だと考えています。出荷量と比較した死亡報告の割合も、市販後、半年の時点と比べると2分の1から3分の1に減っています。死亡例に対して、現在よりも詳しい調査を行う予定はありませんが、今年末か来年初めには、問題なく使用している患者さんの血中濃度のデータなどもまとまってくるので、今後の対策に生かしたいと考えています。リスパダールコンスタなどと比べると、死亡報告の割合が多いことは認識しており、引き続き、医師に適正な使用を求めています」

他の抗精神病薬とゼプリオンを安易に併用する医師の投与方法に問題があるのは明らかだが、こうした非常識な投与は根絶されていない。また、ゼプリオンの用法・用量にも見直すべき点があるのかもしれない。死亡例の詳細な分析や、正確な使用者数をもとにした死亡率の算出、使用中の患者の全例調査、適正投与量を見極める新たな研究などが早急に必要なのではないかと、患者の命を軽視した傍観は許されない。

## 診断しながら手術できる「スマート治療室」…医療機器の中に人が入るイメージ

読売新聞 2016年6月16日

報道陣に公開された「スマート治療室」。脳の模型を使い、模擬手術が行われた（16日、東京都新宿区の東京女子医大で）＝鈴木毅彦撮影

様々な医療機器を連携させ、診断と手術を同時に進められる「スマート治療室」が16日、東京女子医科大学の研究施設で公開された。診断情報などをインターネットで統合し、安全で質の高い治療の実現を目指す。

公開されたのは、磁気共鳴画像装置（MRI）を中心に、手術台や顕微鏡など約20台の機器が一体的に動き、手術を支援する治療室。手術中に採取したがん組織を、その場で検査・診断しながら治療でき、切り過ぎや切り残しを防げる。同大などが国内のメーカーと協力して開発を進めている。

同大病院や信州大学病院が導入を予定している。村垣善浩・東京女子医大教授は「内視鏡のように医療機器を体内に入れるのではなく、一つの医療機器の中に人が入って治療するイメージ。効果を示し、世界に広めたい」と話している。

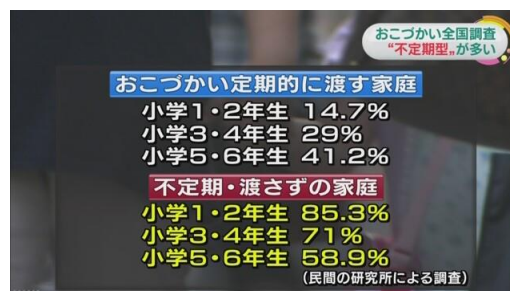


## 小学生へのお小遣い 渡さず・不規則な家庭多い

NHK ニュース 2016年6月19日

小学生へのお小遣いは、毎月ごとなど定期的に渡す家庭より、小遣いを渡さず必要なものを親が買ったり、お手伝いのご褒美などに不定期に渡したりする家庭が多いという調査結果を民間の研究所がまとめました。

この調査はことし3月、民間の研究所がインターネットを通じて行い、小学生の子どもがいる全国の母親およそ1400人が回答しました。





それによりますと、子どもへのお小遣いを毎月ごとなど定期的に渡す家庭は、小学1年生と2年生で合わせて14.7%、小学3年生と4年生で29%、小学5年生と6年生で41.2%でした。

一方、お小遣いを渡さず、必要なものは親が買ったり、お手伝いのご褒美など不定期に渡したりするという家庭は、合わせて小学1年生と2年生で85.3%、小学3年生と4年生で71%、小学5年生と6年生で58.9%で、いずれも定期的にお小遣いを渡している家庭を上回っていました。

調査に当たった、博報堂こそだて家族研究所の脇田英津子上席研究員は「お小遣いで買える物ができる駄菓子屋のような店が減っていることや、放課後を習い事や学童保育で過ごし、子どもどうして買い物をするような機会が減っていることも背景にあると思う。お金の使い方を覚える機会を意識して作らなければならない時代かもしれない」と話しています。

### 子どもと母親は

小学5年生の男の子の母親は「決まったお小遣いはあげていません。必要なときにあげるようにしています」と話し、男の子も「何かあれば買ってもらえるので、お小遣いがなくても困っていません」と話していました。

娘が小学校のときだけでなく、中学1年生になった今もお小遣いを渡していないという母親は「お金の教育のために、お小遣いをあげたいとは思っていますが、具体的いつからかまだ考えていません」と話していました。

### 熊本地震の復興策 有識者会議が提言書

NHK ニュース 2016年6月19日

熊本地震からの復興策を検討する熊本県の有識者会議は、高齢者や障害者に配慮しながら復興を進めるべきだとする提言書をまとめ、蒲島知事に手渡しました。

熊本県は7人の専門家で作る有識者会議に、地震からの復興策を話し合ってもらい19日、会議の座長を務める熊本県立大学の五百旗頭真理事長が県庁を訪れ、蒲島知事に提言書を手渡しました。

提言書には大きく5つの項目が盛り込まれ、このうち暮らしや生活の項目では、高齢者や障害者などの状況を十分に把握するなど、こまやかな配慮をすべきだとしました。

また、地域産業では農家が農業をやめることがないように取り組みを進めることや、次の災害に備えるため後世に伝えていく施設を新たに作るなどが盛り込まれています。

五百旗頭座長は「被災者の痛みをできるだけ少なく生活再建をしていくことが大事だという視点から復興策を作った」と話していました。

提言を受け取った蒲島知事は「この提言に基づき、1日も早く美しく活気のある熊本県を復活させ、さらに発展させていきたい」と話していました。

熊本県は20日に知事を本部長とする「復旧・復興本部」を発足させ、提言を実行するための具体的な計画を早急に作ることにしています。

### 「輝く子ども展」開幕 岡谷市小中学生の作品

長野日報 2016年6月19日

#### 個性あふれる作品が並ぶ「輝く子ども展」



小中学校の美術担当教諭でつくる諏訪美術教育研究会（会長・酒井重明岡谷市立湊小学校長）による第1回輝く子ども展が、18日から岡谷市立美術考古館で始まった。地域美術館と連携して、子どもたちの創造性あふれる作品を地域の人に見てもらおうと初めて企画。同市内小中学校児童生徒の個性あふれる作品約50点が並んでいる。

展示作品は、小学生は色紙で作った立体造形や自由な発想で描いた絵画、中学生からは

粘土で作った立体造形に着色してブロンズ像のように見せる作品などが集まった。小学生の作品の中には、同市のイルフ童画館で見た武井武雄の「鳥の連作」からイメージを膨らませ、色紙を平面や立体に使って児童一人ひとりの「鳥」を表現した作品もある。

今回の作品展では特にテーマを決めて作品募集はしていないため、並んでいる作品はいずれも子どもたちの想像力と創造性にあふれた作品ばかり。研究会の酒井会長は、「学校でも従来の写生のような体験絵画から、さまざまな材料を使って自分のイメージで作る創造性に力点を置くようになってきた。こうした指導は発達障害の子どもにも能力を発揮してもらいやすい」と話し、「子どもたちの豊かな創造性を地域で育ててほしい」と鑑賞を呼び掛けている。

輝く子ども展は25日まで。最終日の25日は午前9時30分から、「色々ワールドづくり」と題したワークショップも開く。5センチ四方の色紙を使って自由な発想で作品を作ってもらおう。同展の鑑賞とワークショップの参加は無料。

### 飲むだけで地域貢献 「寄付金付きコーヒー」販売 大阪日日新聞 2016年6月19日

何げなく飲む一杯のコーヒーが、地域貢献につながる「寄付金付きコーヒー」（寄付カフェ）の取り組みを、大阪市淀川区西中島5丁目のコーヒー豆輸入販売業「焙（い）りたてや本部 一宮物産」が進めている。今月から地元の淀川区だけでなく、市内全域に協力店舗や企業を拡大中。地域に目を向けるきっかけにもなり、注目を集めている。



コーヒーの生豆を手にする一宮さん。寄付カフェの取り組みはいつもの一杯が地域貢献につながる＝大阪市淀川区西中島5丁目

同社の一宮隆史さん（41）が、昨年9月からスタート。寄付カフェのシステムは、同社が協力店に寄付金付きコーヒー豆を販売し、売り上げに応じて5～10%を淀川区役所か淀川区社会福祉協議会に寄付する仕組み。

協力店は、寄付金付きであることを分かるようにして提供するが、利用客に新たな負担はなく、専用ホームページで協力店の情報も発信。寄付金は街づくりの事業などに還元され、コーヒーを飲むだけで地域貢献につながる。

取引があった4店に協力を依頼し、淀川区ではロコミで9店舗に広がった。一般企業や団体も5団体が取り組むようになり、約半年間で1万5千円が寄付額になった。

一宮さんは「4年前に転職して会社を手伝っているが、地元の人と接するうちに何か地域貢献ができないかと考えるようになった。それまでは、全く地元に関心なかった」と振り返る。最初、約60店に飛び込みで協力を依頼したが、全て断られた経験もある。

それでも何か地域貢献したいと考えている店もあり、協力企業では社内向けに寄付金付きコーヒーを提供する動きにもなった。同区十八条1丁目の「珈琲（こーひー）屋きむら」は、客とのコミュニケーションを高めるのにも役立っているという。市内全域を対象を拡大してからは4、5店が関心を示している。

「店舗と地域、行政をコーヒーでつなげられたら」という発想を形にした寄付カフェ。「NPO法人一杯のコーヒーから地球が見える」の理事でもあり、公認インストラクターとして、全国で開催する焙りたてコーヒー講座の講師も務める一宮さんは「年間20万円の寄付額、協力店30店が当面の目標。コーヒーを介して、地域にしっかり足をつけていきたい」と見据えた。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も  
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行